

1992年出土の木簡



(大阪東南部)

- | | | |
|---|----------------|---|
| 1 | 所在地 | 大阪市平野区喜連東五丁目 |
| 2 | 調査期間 | 一九九一年(平4)三月～八月 |
| 3 | 発掘機関 | 財大阪市文化財協会 |
| 4 | 調査担当者 | 佐藤 隆・田島富慈美・久保和士・板野 史 |
| 5 | 遺跡の種類 | 集落跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 縄文時代～江戸時代 |
| 7 | 遺跡および木簡出土遺構の概要 | 喜連東遺跡は大阪市の南東部、瓜破台地の北東縁に位置する縄文時代から江戸時代に至る複合遺跡である。遺跡の範囲は東西五〇〇m、南北三〇〇mと推定され、南北に広がるものと予想される。現在までの調査で特筆すべきものとして、奈良時代を中心とする二〇棟以上の建物群と平安時代後期から室町時代の瓦が多数出土した「廟堂」がある。いずれもこのあたり |

りに在地の有力者が存在したことを示すものである。

1	所在地	大阪市平野区喜連東五丁目
2	調査期間	一九九二年(平4)三月～八月
3	発掘機関	助大阪市文化財協会
4	調査担当者	佐藤 隆・田島富慈美・久保和士・板野 史
5	遺跡の種類	集落跡
6	遺跡の年代	縄文時代～江戸時代
7	遺跡および木簡出土遺構の概要	喜連東遺跡は大阪市の南東部、瓜破台地の北東縁に位置する縄文時代から江戸時代に至る複合遺跡である。遺跡の範囲は東西五〇〇m、南北三〇〇mと推定されているが、さらに広がるものと予想される。現在までの調査で特筆すべきものとして、奈良時代を中心と

れいなかさに広がるものと予想される。現在までの調査で特筆すべきものとして、奈良時代を中心とする二〇棟以上の建物群と、平安時代後期から室町時代の瓦が多数出土した「廟堂」がある。いずれもこのあた
木簡は一三世紀後半の井戸七から見つかった。井戸側は土師質の羽釜を転用し八段積み重ねられていた。ただし、この井戸は一二世紀末と一三世紀初頭の井戸四の井戸側に重複する位置に新たに作られたので、井戸七の羽釜およびその中の埋土が、井戸四の軟弱な埋

土中に沈下していた。木簡はその付近で見つかったので、時期は多少幅を持たせて考える必要がある。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「百二十一ス□」

卅一記三年 十日

(148)×44×4 019

木簡は頭部が方形で、裏面から角を削り落としてある。墨痕は明瞭で釈読も比較的容易に行ない得たが、その表わす意味は後考を俟たざるを得ない状況である。

なお、釈読には鳥居信子・豆谷浩之氏の協力を得た。

9 関係文献

佐藤隆・田島富慈美・久保和士・板野史「喜連東遺跡の中世集落

と中國製磁器」(助大阪市文化財協会『草火』四〇 一九九二年)

田島富慈美「硯のはなし」(同『草火』四一 一九九二年)

(佐藤 隆・久保和士)



木簡研究第一号

狩野 久

卷頭言

一九八八年出土の木簡

概要 平城京跡 平城京左京二条二坊十一・十四坪坪境小路
跡 平城京左京二条四坊二坪 東大寺大仏殿廻廊西地区
原宮跡 藤原京跡 長岡宮・京跡 長岡京跡 嵐峨院跡 (史
跡大覺寺御所跡) 大坂城跡 東郷遺跡 吉田南遺跡 小犬
丸遺跡 姫路城跡 (武家屋敷跡) 姫路城跡 (東部中濠) 玉
手遺跡 猫狹遺跡 山の神遺跡 池ヶ谷遺跡 濱名遺跡 居
村B遺跡 今小路西遺跡 (福祉センター用地) 中里遺跡
中江田本郷遺跡 高溝遺跡 狐塚遺跡 仙台城二の丸跡 熊
野田遺跡 一乗谷朝倉氏遺跡 三小牛ハバ遺跡 能登国分寺
跡 発久遺跡 草戸千軒町遺跡 尾道遺跡 (G D 01 地点)
糸屋町遺跡 下川津遺跡

一九七七年以前出土の木簡 (一一)

出雲国序跡

中国出土簡牘の保護研究

中国出土木・竹簡の保存科学的研究 (抄訳) 訳・佐川正敏

胡 繼高

木箱と文書

所謂『長屋王家木簡』の再検討

小池伸彦 大山誠一 犬飼 隆

有韻尾字による固有名詞の表記

頒価 三八〇〇円 五〇〇円
彙報